公益財団法人CIESF（シーセフ）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-9-8日総第25ビル3階
TEL 03-5774-0250　FAX 03-5774-0251
MAIL info@ciesf.org
ホームページ https://www.ciesf.org/

シーセフ

公益財団法人CIESF

2024年度 活動報告書

CIESF REPORT 2024

理事長挨拶

本報告書を通じて、公益財団法人CIESFが2024年度に取り組んだ活動と、その成果について皆様にご報告できることを嬉しく思います。そして、日頃より私たちの活動を支えてくださっている皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

昨今の国際社会は、多様な課題と向き合い続けています。紛争や自然災害、気候変動による影響は広がり、また、急速な技術革新やAIの進展が社会の在り方を大きく変えようとしています。こうした変化のなかで、教育が果たす役割は、これまで以上に重要性を増しています。特に開発途上国においては、教育が未来を切り拓く鍵であり、持続可能な社会を築く基盤となります。

CIESFは、カンボジアをはじめとする開発途上国において、教育を通じた人材育成を目指し、現地の政府や教育関係者と連携しながら、現地に根ざした支援活動を継続しています。カンボジアでは、政治的・経済的安定が進む一方で、都市と農村、中央と地方との教育格差や、教員の質の確保といった課題は依然として残されています。こうした現状に向き合い、私たちは教育の機会をひろげるだけでなく、その「質」を高めるための取り組みを強化してきました。

これからの教育に求められるのは、単なる知識の詰め込みではなく、変化に対応し、新たな価値を創造できる人材の育成です。創造性、協働力、倫理観、そして多様性を理解し受け入れる力が、これからの社会に不可欠となっています。CIESF Leaders Academyでは、そうした未来を担うリーダーを育成するため、教育の本質を大切にしながら、現地に適した教育モデルの構築を進めてまいりました。

私たちは、教育が人の可能性を引き出し、社会を変える力を持っていると信じています。そして、その教育が真に実を結ぶためには、「人と人とのつながり」「現場に寄り添う視点」「共に学び合う姿勢」が欠かせません。CIESFは、これからも地道な活動を積み重ねながら、教育を通じて世界中の子どもたちに未来への希望を届けていきます。

皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人CIESF
理事長　大久保秀夫

シーセフについて

創立者の大久保秀夫が、カンボジアでの支援を要請され、現地を視察したのが始まりでした。実際の現地の状況を目の当たりにし、本当に大切で必要な支援はモノを与えるのではなく、人や教育をサポートすることだと実感しました。2009年から「国境なき教師団」を派遣し、'魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える'という方針を掲げ支援活動をスタートしました。世界が抱えるすべての問題の根本解決のカギは「教育」だと考えています。'自分さえよければ''自分の国さえよければ''今さえよければ'という考えが蔓延している今の世界で、国連が採択した「持続可能な開発目標」を実現するためには、「地球益（地球上すべてのものにとっていいこと）」という考えを持った人材を育成することが大切です。「教育をすべてのはじまりに、地球益があたりまえの未来」を目指し、私たちは教育の本質を考えて活動を行っています。

SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて

シーセフは教育分野における様々な活動を行っています。2030年に向けて世界が合意したSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて取り組み、特に、目標4（質の高い教育をみんなに）に注力しています。当年次報告書では、紹介する各プロジェクトに関連したSDGS 目標のアイコンを併記しています。

シーセフの一年

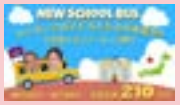
5月　カンボジアフェスティバル出展@代々木公園

6月　教員向け「振り返りノート」研修会実施

8月　教育政策大学院大学日本人講師による集中講義

9月　カンボジア人教員日本研修

10月　クラウドファンディング「スクールバス購入」



11月　11期生卒業論文発表会

6,12月　東京西ロータリー支援小学校視察、研修

2月　千葉若潮ロータリークラブ教材贈呈式

3月　ビジネスモデルコンテストファイナル審査

教師を育てる事業　教育行政を改善する　起業家を育てる　子どもたちに質の高い教育を届ける　事務局

インタビューページ

日本とカンボジアで学びあい、新たな教育の創造へ

2023年10月～スタートした教師交換プログラムで、最初にCLAで研修を行った日本人の先生と、北海道の幼稚園で研修を行ったカンボジア人の先生に、研修の様子をインタビューをしました。

シーセフが2016年から運営するCIESF Leaders Academy（CLA）は、カンボジアの未来を担うリーダーの育成を目指し、日本の教育を参考にした新たな教育モデルをカンボジア人と共に創り上げています。私たちのこの活動が、だんだんと日本の教育機関に認知され、「何か協力できることはないか」とのお声があり、教師交換プログラムが始まりました。
日本側からは、CLAと提携する教育機関が、CLAに教師を派遣します。CLAで日本の教育の優れた点を伝えるとともに、自身の高いスキルを活かしてもらいます。シーセフの理念に賛同し、カンボジアの教育へ貢献したいという日本人教師の方々が、CLAの教育に携わることは、CLAにとって大変ありがたいことです。また、カンボジアでの様々な経験や学びを日本の学校現場に持ち帰ることで、日本でも良い循環が生まれていると好評をいただいています。
一方、カンボジア側からは、CLAで働くカンボジア人教師が、提携する教育機関で研修をさせてもらいます。「百聞は一見に如かず」で日本の教育を肌で感じる体験はとても効果的で、スキルアップだけでなくモチベーションアップにも繋がっています。

髙岡 汐里先生
研修期間：2023/10～2024/4
研修場所：CLAの3歳児クラス

ーなぜこのプログラムに参加しましたか？
日本とは異なる環境で教育することが、自らの教育の質を高め、スキルアップに繋がると感じたからです。また、海外で日本語を使用しながら仕事ができる環境に安心感を覚えたことも、大きな理由の一つでした。さらに、今まで学んできた「子どもが主体的に遊べる環境づくり」や「関わり方」など、日本の教育の良い点をカンボジアに広めることができたら、新しい学びを得られると思いました。

ーCLAの教育はどのよう印象でしたか？
CLAでは、先生方が全員で意見を出し合いながら物事を進め、行事にも一人ひとりが主体的に関わり、協力して作り上げている印象を受けました。また、「楽しむ時は全力で」という姿勢を大切にしていて、その明るく前向きな雰囲気が子どもたちにも自然に伝わっていると感じました。日本では控えめに振る舞うことが多いですが、CLAの先生方の積極的な姿勢を見習いたいと思いました。

ーCLAで学んだことや気づきはありましたか？
はい、やはり子どもは万国共通で「楽しいこと」が大好きで、夢中になることで多くのことを学ぶということを実感しました。また、カンボジアの職員の方々と接する中で、文化や考え方の違いを感じる場面が多くありましたが、日々のコミュニケーションを積み重ね、お互いの価値観を押し付け合うのではなく、すり合わせながら理解を深めることで、良好な関係を築くことができると学びました。特に、CLAの日本人の先生とカンボジア人の先生の関係性の中から、その重要性を強く感じました。

日本で培ったことをCLAで実践する髙岡先生

ー最後に一言お願いします。
カンボジアでの教育では、言葉が通じない場面が多くありました。そのため、言葉以外の方法で思いを伝える力が求められました。この経験を通じて、日本でも言葉が未発達な子どもたちと生活する上で必要となるスキルが、さらに培われたと感じています。
また、CLAでの教育だけでなく、カンボジアでの生活全般が、新しいことへの挑戦の連続でした。「とにかくやってみること」の大切さを実感し、たとえ失敗しても、そこから学び、反省を活かして再び挑戦する姿勢が大切であると強く感じました。
この経験を今後の糧にし、日本の教育にも活かしたいです。子どもたち一人ひとりの個性を尊重しながら、より良い教育の実践に努めていきたいと考えています。

ホール ポッティア先生
研修期間 ：2024/9～2024/10
研修場所：白老さくら幼稚園

ー日本の幼稚園で学んだことは何ですか？
「遊びを通じた学習」の大切さです。子どもは楽しいことに夢中になると、自然と多くのことを吸収することを学びました。

例えば、白老さくら幼稚園では、文字の学習は行っていませんが、遊びを通して自然に学べる環境が整えられています。その結果、多くの園児がひらがなの読み書きを習得していることに驚きました。
また、色遊びでは「この色とあの色を混ぜたらどんな色になるのだろう？」と子どもたちが自ら考え、予測し、実際に確かめることで、学ぶ楽しさを実感できるよう工夫されていました。子どもの内面から湧き上がる好奇心を膨らませ、学ぶ意欲と思考力を高めることに重点が置かれていると感じました。
色遊びについては、さっそくCLAでも実践してみました。カンボジアの子どもも、色の変化を楽しんでいる様子でした。

色遊びの様子　白老さくら幼稚園（左）・CLA（右）

ー研修で印象に残ったことは何ですか？
先生方による子どもたちへの言葉のかけ方です。「やめなさい」「これをしてください」と指示するのではなく、「どうするといいかな？」「代わりにやってくれる？」と問いかけることで、子ども自ら考え、判断し、行動できるように促していました。
このように言葉がけの工夫一つで、子どもたちが主体的に動いていたことが印象に残りました。

ー日本での学びをどうCLAに活かしますか？
まずは、子どもたちが楽しみながら自然に言語に触れられる環境を整えたいと思っています。CLAに戻り、クメール語の文字のパズルやカードゲームなどのオリジナル教材を作成しました。

研修で学んだことをもとに作成した教材

そして、日本での研修後、幼稚部主任となり、各クラスの活動のサポートを行う中で、子どもたちには時間を守ることや、学ぶ時間・遊ぶ時間を区別する習慣を身につけてほしいと思っています。そのために、日本で学んだ「先生が一方的に教えるのではなく、子どもが自発的に考え、行動するように促す」という考えを大切にして、声かけをしたいと思います。そして私だけでなく、一緒に働くカンボジア人の先生にも声かけの方法を伝え、CLA一丸となって子どもたちの成長を見守りたいと思っています。

教師を育てる

1975年から約4年間、ポル・ポトを中心とした独裁政権がカンボジアを支配し、カンボジア国内の知識層が大勢殺害されました。この間、学校教育はほとんど崩壊しました。再開された学校では、わずかに字が読める人が教師となり、その環境下で教育を受けた現在の教師たちには、基礎学力に多くの問題が残っています。シーセフでは、日本人の教育アドバイザーがカンボジア教員養成校をサポートし、教師の質の向上を目指しています。

対象　小学校教員養成校の教官
実施期間　2009年～
実施場所　プレイベン州、スバイリエン州、コンポンスプー州、クラチェ州など

2024年度の取り組み

カンボジアの理科教育の質の向上を目指し、現地教員養成校教官と協働で「小学校理科教師用指導書作成プロジェクト」を進めています。この取り組みでは、各単元に少なくとも一つの自作教材を考案することで、限られた環境でも実施できる実験・実習活動を重視しています。附属小学校での試行授業を実施し、「計画（自作教材開発）→実施（研究授業）→評価（授業反省会）」のサイクルを通じて教育改善を推進しています。完成した学年別指導書は、順次教育省に提出し、その効果的な活用を図るために、教育省初等教育局ナショナルトレーナー等を対象とした実技研修会および模擬授業を実施しました。これらの総合的な取り組みにより、カンボジア全国の理科教育の充実に貢献していきます。
また、2020年度より開始した「振り返りノートプロジェクト」は、全国展開を目指した新たな段階に入りました。この展開に伴い、プロジェクトの実施主体は教育省へと移行し、シーセフは技術支援を担当する体制へと変更されました。技術支援として、教育省関係者向け講習会の実施や、指定校での説明会支援、実地フォローアップ、事業評価資料の収集支援などを行っています。これにより、プロジェクトの効果的な全国展開と持続可能な実施体制の構築を目指しています。
さらに、西東京ロータリークラブ様からのご支援と千葉若潮ロータリークラブ様より寄贈をいただいた教材を活用した授業研修会や、現地の先生による授業の視察と振り返り指導を行いました。授業は小学校5年生には「豆電球に明かりをつけよう」、6年生には「導体と不導体」をテーマに行いました。

指導書作成のための研究授業「滑車」

初等教育局ナショナルトレーナー等への小学校理科実技研修会と模擬授業

寄付教材を活用した授業準備「豆電球に明かりをつけよう」

研修会に参加した教育省初等教育局ナショナルトレーナー等の人数
※一部、初等教育局推薦の現職小学校教員含む
72 人

振り返りノートを使用している生徒の人数
362 人

インタビュー

教育行政の改善を目的に、シーセフが2012年に設立した教育政策大学院大学の卒業生でもある、教育省初等教育局局長に話を聞きました。

教育省　初等教育局
局長　カン・プッティ氏

Q.現在、担当している業務を教えてください。
A.①教育計画の立案と実施および実施状況の管理・調査・報告②外部機関との連携による教育資源の確保③学校組織の管理体制や統治体制の管理・運営④地域社会の学校開発活動への参加促進などです。教育政策大学院大学で得た知識は、業務遂行に大いに活かされています。
Q.小学校理科教師用指導書作成プロジェクトと振り返りノートプロジェクトは、教育現場にどのような効果をもたらしていますか？
A.教師用指導書の導入により、教員は従来の教員中心の指導法から学習者中心のアプローチへと転換しました。指導計画の立案がより容易になり、教員は自作教材を積極的に作成するようになったほか、自己能力開発に取り組み、その結果として生徒の理解度も向上しています。自作教材の作成は難しいという声も聞きますが、理科専門の教育アドバイザーの育成や、実験室の整備、実験時間の設定などを行い改善を図っていきます。
また、振り返りノートプロジェクトでは、教員が授業の改善点を把握して目標を絞った指導ができるようになり、生徒の記述スキルの強化や問題の迅速な解決にもつながっています。これらの取り組みを通じて、教員・保護者・生徒間の関係も深まっています。
Q.２つのプロジェクトを全国に普及させるために、どのようなことを計画していますか？
A. 教員研修プログラムを構築し、全国展開することを計画しています。カンボジアの構造的な教育課題に対して、これらのプロジェクトが有効に機能することを期待しています。

教育行政を改善する

教材費予算がない、教科書に誤記がある、小学校の卒業率が低い、カリキュラムがこなせない・・・など学校現場だけでは解決できない課題も多くあります。子どもたちが学びやすく、教師たちが働きやすくするために教育制度を整えることも必要です。教育行政官が教育の仕組みや管理方法について学ぶための大学院を設立し、教育課題の根本解決を目指します。2020年からは教育省管理の下、国立教育研究所が独立体制で大学院の運営を行い、シーセフはそのサポートを行っています。

対象　教育省の行政官、教師
実施期間　2012年～
実施場所　プノンペン

2024年度の取り組み

例年実施している特別講義に加え、現場でのインタビューを通じた課題抽出、教育省への改善提案、施策実施支援を行いました。教員へのインタビューでは、授業準備時間の不足、古い教材の使用、休講の多発、論文指導のばらつき、文献や専任教員の不足といった課題が明らかになりました。
これに対し、シーセフは以下4つの改善提案を行いました。①教育省勤務日の一部を「研究日」として設定し授業準備時間を確保すること②単位が付与される「論文指導」科目の新設③E-Libraryの整備④専任教員の採用を提案しました。
これを受けて、教育省は教材更新フローや教員評価制度の整備、職員体制の見直しをはじめ、図書館やE-Library（2025年5月開始予定）の整備、コンピューターラボの設置、論文執筆期間の延長、特別講義の実施、研究論文出版の奨励などの改善策に取り組んでいます。
今後の取り組みとして、シーセフは修士論文・博士論文に焦点を当てた調査を進める予定です。教育政策大学院大学の目指す修了生像は、カンボジアの教育政策や学校現場において自ら課題を発見・調査し、解決策を導き出せる「研究能力を持った行政官・教員」です。その中核となるのが修士論文・博士論文の執筆です。このため、学生へのインタビュー調査を実施し、修士論文・博士論文に関する指導体制や学習環境、情報アクセスの実態を把握していきます。さらに、調査結果を基に、具体的な改善提案を教育省に行い、修士論文・博士論文執筆の支援体制の強化を図る予定です。

日本の学校制度や教員問題について対話形式で行った特別講義

11期生（2024年修了）の修士論文発表会

開校から修士課程を卒業した人数
328人

修士課程在学生徒数
90人

インタビュー

修士論文「コンポンスプー州の中等学校モデル基準の実施における校長の責任：指導と学習を含めて」を執筆した卒業生に話を聞きました。

ポー・チャンテイア氏
教育政策大学院大学
第11期生(2024年修了)
コンポンスプー州
Bandit Long Siem高校
英語教師　教員歴10年

Q. 集中講義で特に印象に残ったことは何ですか？
A.日本の教育制度に関する学びが印象深かったです。特に、教師の職務や教育システム全体について理解を深め、カンボジアの教育環境との比較を通じて、教育の質向上に必要な要素が見えてきました。これが、修士論文のテーマ選定にも影響を与えました。

Q. 修士論文の執筆で苦労した点は何ですか？
A.参考文献の不足が最大の課題でした。また、研究テーマの選定にも時間がかかり、早期の指導があれば負担が軽減できたと思います。しかし、この困難を乗り越え、文献リサーチやテーマ設定の改善策を考え、結果的に学術的な視点や課題解決の方法を学ぶことができました。この経験が、今後の教育行政の改善に役立つ大きな成果になると感じています。

Q.今後、カンボジアの教育政策にどのような改善を加えたいか？
A.修士課程で学んだことを基に、カンボジアの教育政策に具体的な改善を加えたいと思っています。特に、学校の管理職である校長や副校長の役割を強化することが重要だと考えています。管理職が教育の質を向上させる鍵であると実感しています。また、教師の負担軽減、予算の効率化、英語教育の普及を進め、カンボジアの教育の質向上を目指します。

起業家を育てる

カンボジアでは、国内資本による大企業が少なく、雇用や納税といった経済活動の多くが国外資本に依存しているのが現状です。こうした状況を踏まえ、私たちは将来の雇用創出と国内産業の発展に貢献することを目的に、起業家の育成に取り組んでいます。具体的には、「ビジネスモデルコンテスト（以下BMC）」の開催と、起業家研修を通じて支援を行っています。これらの取り組みでは、単なる起業の促進ではなく、社会性のある事業であること、そして「起業家としての在り方」を大切にしています。

対象　社会人5年目未満または学生起業家
実施期間　2010年～
実施場所　カンボジア全土から応募可

2024年度の取り組み

ビジネスモデルコンテストは、2024年10月より応募を開始し、カンボジア国内の25以上の大学から70件の応募が寄せられました。その中から選ばれた28チームが、約2か月間にわたる研修プログラムに参加しました。この研修プログラムでは、24名の元BMC卒業生や現役の起業家がメンターとして、各チームに対して個別の支援を行いました。内容としては、事業の仕組みを可視化して整理する「ビジネスモデルキャンバス」と、実際の顧客の声をもとに事業を改善していく「リーンスタートアップ」の考え方を中心に学びました。研修プログラムを経て、2025年3月には選ばれた12チームがファイナルプレゼンテーションに臨みました。

◤今年のビジネスプラン◢　ファイナルプレゼンテーションに勝ち残ったチームのビジネスプランの紹介

MangoGlow ：**廃棄から資源へ。マンゴーの皮で実現するアップサイクル**

カンボジアの食品廃棄物問題に対する革新的な解決策を提供します。廃棄されがちなマンゴーの皮を、栄養豊富で多用途な粉末に変換することで、新たな価値を創出します。マンゴーの皮には、食物繊維、抗酸化物質、必須栄養素が豊富に含まれており、これを微粉末として再利用することで、廃棄物を資源に変え、健康志向の製品として販売します。こうしたアプローチにより、食品ロスの削減と健康促進の両立を実現し、持続可能な社会を目指します。

ファイナルプレゼンテーションの様子

表彰式の様子

2010年からの応募総数
913件

今年度研修を受けたチーム数
28 チーム

起業家研修では、シーセフ創設者である理事長 大久保秀夫による講義が行われました。「企業は社会の公器であり、社会課題の解決を通じて持続的に価値を生み出す存在であるべきだ」と説き、事業の成功だけでなく、「起業家としての在り方（How to be）」に重きを置く姿勢を強調しました。
また、日本の100年企業に見られる「信頼」や「継続性」の考え方を研修に取り入れ、長期的に社会に求められる企業とは何かを探求しました。参加者は「何をするか（How to do）」に加え、「どうあるべきか（How to be）」を見つめ直す機会となり、社会性と倫理観を備えた起業家としての成長を目指しました。

カンボジアの起業家に向けて講義を行う理事長 大久保秀夫

起業家研修の様子

インタビュー

ビジネススクールの創設者であり、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいるイエン・ソティアラ氏に、シーセフの起業家研修に参加された経験を踏まえて話を聞きました。

イエン・ソティアラ氏

サママッグビジネススクール
創設者

カンボジア・日本ビジネス
投資協会の会長

Q.ご経歴を教えてください。
A.医師としての経験を経て、1996年にビジネス分野で起業しました。カンボジアの多くの起業家がハードスキルに偏り、ソフトスキル不足でビジネスが破綻しやすい現状を踏まえ、倫理観や道徳観の育成に注力するサママッグビジネススクールを設立し、正しい経営の在り方を伝えています。

Q.シーセフが実施した起業家研修で印象に残っていることは何ですか？
A. 大久保理事長の講演で、「How to do（何をするか）」と「How to be（どうあるべきか）」の2つのテーマが特に印象に残りました。事業の方法論を学ぶだけでなく、起業家としての社会的責任や倫理観の重要性が強調され、理論と実践を結びつけた具体例を通じてそのメッセージを深く理解しました。

Q.今後、シーセフに期待することは何ですか？
A. カンボジアの若手起業家に対して、倫理観や道徳観といったソフトスキル、さらにはリスク管理に焦点を当てた教育プログラムを強化してほしいと考えています。多くの起業家は技術や専門知識に優れていますが、社会的責任や倫理的判断力に課題があり、これを改善することが持続可能なビジネスの構築には不可欠です。シーセフには、社会性と倫理観を重視した起業家育成を推進し、カンボジア経済の健全な発展に貢献する人材の育成を期待しています。

産業人材を育てる

カンボジアは順調に経済成長を遂げていますが、都市部と地方の格差が拡大し、深刻な社会問題となっています。その一因が地方における技術人材の不足であり、その背景として、研修機会の少なさが挙げられます。特にIT人材の育成が十分に進んでいないことが課題です。私たちはE-learning教材を開発し、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で研修支援事業を行っています。

対象　公務員
実施期間　2017年～
実施場所　バッタンバン州
スバイリエン州

2024年度の取り組み

2017年10月より2022年2月の間、JICA草の根技術協力事業(パートナー型)として「地方経済の活性化に必要なIT基礎能力取得と認定のための研修支援事業」を行ないました。2023年度は「バッタンバン州政府IT人材育成計画（298人の州政府職員を対象）」及び「シェムリアップ州政府IT人材育成計画（100人の州政府職員を対象）を実施しました。これらの経験を活かして、2024年度は地域住民と接する機会の多い県市町村の職員を対象としたIT人材育成を行なうことを計画し、案件形成活動を行いました。

インタビュー

研修を受け、ITパスポートを取得した修了生へ、現在の活躍について話を聞きました。

ボムロン・チャリヤ氏　バッタンバン州産業科学技術イノベーション省　職員

情報技術への理解を深め、日々の業務に役立てたいという思いから、今回の研修に参加しました。法律、経営、システム設計など多岐にわたる分野の知識を習得し、コンピュータシステムに関する理解が大きく深まりました。IT研修は初めての経験であり、当初は基礎知識の不足に戸惑うこともありましたが、講師のサポートのもと、継続的に学習を重ねることで、最終的にはITパスポートの資格を取得することができました。現在は、研修で得た知識や資格を業務に活かしつつ、同僚との情報共有を通じて職場全体のIT活用の向上に努めています。今後は、国民により良いサービスを提供できるよう、自らのスキルをさらに高めるべく継続的に学び続けていきたいと考えています。

サムナン・モリニアット氏　シェムリアップ州行政官

経営や技術システムに関する知識を深めたいと考え、研修に参加しました。研修では新たな知識を得るとともに、多くの人々と交流し、視野を広げる貴重な経験となりました。特に、ベトナム・ホーチミンでITパスポート試験を受験したことは、今でも印象に残っています。一方で、仕事や家庭と両立しながら学習時間を確保することは簡単ではなく、時間の使い方に工夫が必要でした。それでも努力を重ねた結果、資格を取得でき、自信にもつながりました。現在は、研修で得た知識を業務に活かすとともに、同僚と共有しながら実践に努めています。今後はさらに専門性を高め、地元はもちろん、海外の就職市場でも通用する人材を目指していきたいと考えています。

子どもたちに質の高い教育を届ける

「地球益があたりまえの未来を実現する」ために、2016年に幼小中一貫校「CIESF　Leaders　Academy」を設立し、カンボジアの子どもたちに質の高い教育を届けています。2023年には第2ステージとして8つの教育目標を掲げました。2024年10月には小学校6年生までが揃い、2025年10月からは中学部がスタートします。

対象　3歳児～
実施期間　2016～
実施場所　プノンペン

シーセフリーダーズアカデミーの1年（2024年4月～2025年3月）

第1領域（幼稚部）

4月	後期始業
5月	保護者面談
7月	七夕集会/保育参観
8月	内科検診/ありがとう集会
9月	卒園式
10月	入園式/始業式
12月	クリスマス会
1月	オンライン保護者会/火災訓練
2月	節分集会/内科検診
3月	親子遠足/クメール正月会

第2領域（小1～小3）・第3領域（小4～小6）

4月	後期始業集会/身体測定
5月	社会科見学・遠足（第2領域）
6月	眼科検診/後期中間試験
7月	学習発表会
8月	内科検診/夏祭り
9月	後期末試験/保護者面談/修了式
10月	入学式/始業式/身体測定
12月	運動会/前期中間試験
1月	火災訓練
2月	社会科見学・遠足/内科検診/授業参観
3月	前期末試験/クメール正月会/保護者面談

運動会

節分

入園式

数字で振り返るシーセフリーダーズアカデミー

子どもの数

195人

（園児76名、児童119名）

スタッフ数

51人

（うち日本人15名）

年間運営費

約1.41億円

2024年度の取り組み

たくさんあそんで　たくさん学ぶ

幼稚部では、これまで「自由あそび」と呼んでいた時間を「探求あそび」に変更しました。先生たちは、子どもたちの興味がどこに向かっているのかをいち早くキャッチし、とことん熱中できるように見守るだけでなく、さらに関心が広がるようさまざまな仕掛けを取り入れています。
子どもが遊びに没頭できる環境をつくることは、想像力や創造力が育まれ、問題解決能力が培われたり社会的スキルを身に付けたりすることに繋がります。日本では当たり前に行われていますが、カンボジアではこの教育について保護者の認知度が低いのが現状です。まずはCLAのカンボジア人の先生たちがこの考えを理解し、実践していくことに大きな意味があります。そして保護者やカンボジアの幼児教育にも広めていくために、園児も先生も共に学び、成長を続けています。

よりよい授業のために・・・

CLAでは、子ども主体の授業づくりに力を入れています。先生が話すだけの一方向の授業や、やりっぱなしの授業ではなく、子どもたちが学ぶ過程を大切にし、どのように学習内容を身に付けていくとよいのかを考えて授業を組み立てます。そのために、毎回の授業で指導案（主に板書計画）を作成して授業に臨んでいます。まずは、導入→展開→まとめのサイクルを軸に行うようにしています。そして、先生が互いの授業を見合い、意見交換をします。カンボジア人の先生は「指導案を作成するのは大変だがあった方が授業をしやすい」、「先生も子どもも流れが分かるので見通しを持てるようになった」などという、前向きな感想をもっています。これからも、先生たちの指導力向上に向けて取り組んでいきます。

応援してくださる支援者の方々への感謝

おかげさまでいつも支援してくださる方をはじめ、CLAに興味をもってくださる多くの方々がCLAを訪問し、見学や交流を通してCLAのファンを増やすことができました。日本語を学ぶ子どもたちが日本人と会話することは、学習してきたことを実践するよい機会となります。「上手だね」と褒めていただいた時には、子どもたちはとても嬉しそうで、モチベーションが高まります。日頃カンボジアの学校では触れることの少ない音楽やスポーツなどの芸術分野でもご支援いただき、貴重な体験を子どもたちに味わわせることができました。皆様のご協力無くして、カンボジアの教育に貢献することができません。引き続き、応援をお願いいたします。

インタビュー

学校を支える大切な役割！管理部で働く職員に話を聞きました。

マウ・ヘロー
（管理部）

シーセフで働いて9年目になります。管理部での仕事は、日本人の先生と円滑なコミュニケーションを図りながら業務を成功させたり、自分の日本語力向上を実感したりする時にやりがいを感じます。また、スタッフのICTトラブルを解決した時も嬉しい瞬間です。
一方で、プリンターの故障対応や設備管理など、幅広い知識が求められる点は大変です。最近はコンピューター修理のスキルを習得し、迅速な対応が可能になりました。
今後はICTを活用した教育をさらに発展させ、CLAをカンボジアのデジタル教育モデルにしたいと考えています。

CLAに在籍中の2期生の児童と、9期生として入園した保護者の方へ、学校の様子などの話を聞きました。

ロス・サテッモンタイ
（2期生　5年生）

Q. CLAでどんな時間が楽しいですか？
A. 友だちと協力して学ぶことです。特に、探究日本の授業で日本語をすぐに理解でき、友だちに教えることができた時はとても嬉しくなります。
Q. CLAでの８年間を振り返ってどうですか？
A. CLAでの生活を振り返ると、自分が大きく成長したと感じます。日本語が読めるようになり、クメール語の読み書きが上達し、算数では答えの理由を深く考えられるようになりました。
Q. 6年生になるにあたって目標はありますか？
A. 6年生になるのが楽しみです。勉強や宿題をしっかりこなし、下級生の良いお手本になりたいと思っています。

9期生の保護者

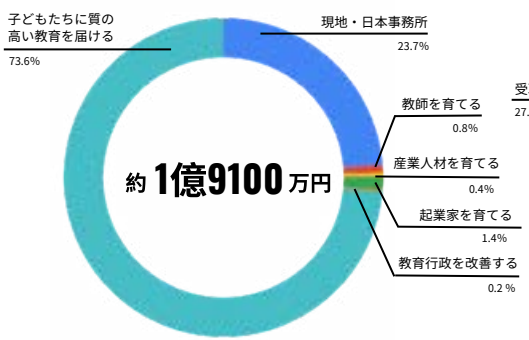
CLAは日本水準の教育を取り入れ、子どもたちを未来のリーダーとして育てる学校です。その教育方針に感銘を受け、入園を決めました。子どもには、自立心を持ちながらも規律や道徳心、礼儀を大切にし、学ぶことの楽しさを感じてほしいです。また、身の回りのものに興味を持ち、「なぜ？」を考える力を育んでほしいと願っています。
今後も小学校、中学校でも学びを深め、母語であるクメール語はもちろん、日本語、英語も習得し、自分の好きなことを追求できる力を身につけてほしいと思っています。

数字で振り返るシーセフ

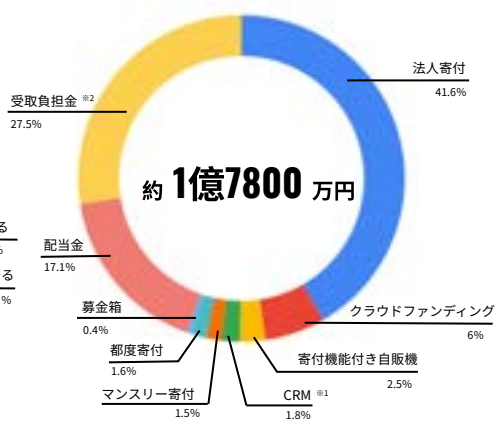
1年のシーセフを数字で振り返ります。（2025年3月31日時点）

法人支援数 295 法人	マンスリースポンサー ※個人・法人含む 106 人	クラウドファンディング支援者数 131 件
募金箱設置数 151 台	寄付機能付き自販機設置数 298 台	イベントブース来場者数 ※カンボジアフェスティバル2024 448 人
メルマガ登録者数 991 人	facebookフォロワー数 2991 人	インスタフォロワー数 756 人

支出内訳



収入内訳



※1コーズ・リレーテッド・マーケティング（Cause Related Marketing）と呼ばれ、社会的な課題解決に寄与しつつ、企業や商品・サービスのイメージを向上させることのできる支援方法です。
※2CIESF Leaders Academyの教材費等受取分他

2025年度のシーセフ

これから1年間のシーセフの活動を紹介します。

	事業名	活動内容
4月	起業家を育てる	日本人経営者による カンボジア人経営者向け講義
5月	日本事務局	カンボジアフェスティバル2025出展 @代々木公園
	教師を育てる	教員養成校で日本人アドバイザーによる 模擬授業および調査
7月	子どもたちに質の高い教育を届ける	クラウドファンディング 「中学部設立のための備品購入」
		カンボジア人教員日本研修
		国際交流事業　奈良県宇陀市・ 和歌山県那智勝浦町　訪問
8月	教育行政を改善する	教育政策大学院大学で日本人アドバイザーによる集中講義および調査
9月	子どもたちに質の高い教育を届ける	幼稚部卒園式・小学部卒業式
	起業家を育てる	BMC受賞者サンフランシスコ(USA)＆ダブリン(IRL)研修旅行
10月	子どもたちに質の高い教育を届ける	中学部開校、幼稚部・小学部入園入学式
11月	起業家を育てる	日本人経営者による カンボジア人経営者向け講義
	教育行政を改善する	12期生卒業論文発表会
12月	教師を育てる	教員養成校で日本人アドバイザーによる 模擬授業および調査
2月	起業家を育てる	ビジネスモデルコンテストファイナル
3月	教師を育てる	千葉若潮ロータリークラブ教材贈呈式

CIESF シーセフ

応援メッセージ

皆様の温かいご支援、ご協力により活動が成り立っています。心より感謝申し上げます。

株式会社ビジネスパートナー　様

当グループでは、カンボジアで「Active People's Microfinance Institution Plc.」というファイナンス会社を運営しております。
カンボジアは近年、経済成長とともに教育の重要性が高まっており、特に若い世代の教育環境の充実が国の発展において不可欠であると考えています。
このような背景の中、CIESF様の教育の充実と普及を目的とした支援活動に大変共感し、微力ながらご協力させていただいております。実際に「CIESF Leaders Academy」様へスクールバスの買い替え費用の寄付を行いましたが、当グループにも寄付先にお子さんを通わせている従業員がおり、寄付後には良い笑顔を見ることができました。このような支援が、カンボジアの未来を担う子どもたちにとって、より良い教育環境を提供する一助となることを心から願っています。今後も支援活動を通して、カンボジア国内の持続可能な発展に繋がるよう、社会問題の解決や教育環境の充実に貢献して参ります。

株式会社ヨコソー　様

代表取締役
佐藤幹男 様

マンションの大規模修繕工事を行っている弊社では、工事期間中に工事現場に多く出入りする作業員やスタッフの飲料を供給する目的で自動販売機を設置することがよくあります。SDGsの観点からこの収益を募金することを社員から提案がありました。
募金先にCIESFを選定した理由は、今後ますます労働力を東南アジアなどの外国人に頼らなければならないなか、母国でしっかりと教育を受けてくることは日本に来て働くことになったときにも大変有益で、その活動は支援していくべきと考えたからです。

シーセフスタッフ

日本事務局

カンボジアオフィス

CIESF Leaders Academy

ミャンマーオフィス

シーセフへのさまざまな参加方法

様々な方法でシーセフの活動に参画できます。

公益財団法人CIESF（シーセフ）は、内閣府より公益財団法人の認定を受けています。シーセフへの寄付は確定申告をすることで税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

お金による寄付

シーセフリーダーズアカデミースポンサーシップ

シーセフリーダーズアカデミーの子どもたちの中学校卒業までの学びを支える継続型の寄付です。
月々1,000円/3,000円/5,000円/10,000円プランからお選びいただけます。
クレジットカードでのお手続きとなります。

継続的な寄付（マンスリーサポーター）

月々1,000円/3,000円/5,000円/10,000円プランがあり、継続的にご支援いただけます。
クレジットカードでのお手続きとなります。

都度寄付

法人サポーター：1口10万円～/年
個人サポーター：1口1万円～/年
銀行振込・クレジットカード・口座振替がご利用いただけます。

今回だけ寄付

お好きなときにお好きな金額をご寄付いただけます。銀行振込・クレジットカードがご利用いただけます。

寄付について詳しくはこちら

モノによる寄付

買う寄付

シーセフが企業とコラボしている商品やサービスを購入することで売上の一部が寄付になります。

モノ寄付

未使用切手、未使用・書き損じハガキが寄付になります。お問い合わせください。

企業・法人のコラボレーション

寄付機能付き自販機

毎日の購入が寄付につながる寄付機能がついた飲料自販機です。複数のメーカーからお選びいただけます。

寄付機能付き商品

自社の商品やサービスの特徴を活かし、その売上の一部を寄付するという企画型支援です。

参加する

シーセフスタッフとして働く

日本事務局またカンボジアで働くスタッフを募集しています。あなたの経験やスキルを社会貢献に活かしませんか？最新情報はホームページを御覧ください。

SNSフォロー

SNSをフォロー・拡散することが応援になります。ぜひフォローお願いします。

この活動報告書は株式会社オピカ様（代表取締役 岡本明様）のご支援で印刷しています。